

大軍拡・大増税 NO!連絡会 NEWS

第 22 号

平和、いのち、くらしを壊す戦争準備の大軍拡・大増税 NO! 連絡会

〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 4 階

2026 年 8 月 4 日

大軍拡・大増税 NO! 連絡会、国民大運動実行委員会、安保破棄中央実行委員会、中央社保協

大軍拡推進の無責任な放漫財政 NO!

軍拡よりも医療・介護・福祉の充実を!

いのちと暮らしを守れ! 26年「骨太方針」に抗議する首相官邸前行動

「平和、いのち、くらしを壊す戦争準備の大軍拡・大増税 NO! 連絡会」は7月24日昼、「いのちと暮らしを守れ! 26年「骨太方針」に抗議する首相官邸前行動」を行い、50人が参加しました。国民大運動実行委員会、安保破棄中央実行委員会、中央社会保障推進協議会と共催しました。



「安保中央実行委員会」の東森さんは主催者あいさつで、「高市政権が決定した方針は軍事色が極めて強く、経済界では『早苗ショック』と言われるほどの危機を招いている」と指摘しました。さらに、国が軍事工場を保有する仕組みを「戦前の国営軍事工場の復活だ」と断じ、戦争遂行体制への変貌を強く批判しました。

■社会保障の抑制は「世代間分断」を招く

「中央社保協」の名嘉さんは、「大軍拡の裏で社会保障は抑制され、高齢者の負担増により世代間分断が強まっている」と指摘。沖縄での辺野古新基地建設に巨額の税金が投じられていることに触れ、「軍事のためではなく、我々の生活のために税金を使うべきだ」と強調しました。また、介護保

険が「お金がなくて使えない制度」になりつつある現状を指摘し、介護報酬の抜本改善を求める署名への結集を呼びかけました。

■食料自給を軽視する「農政の改悪」に憤り

「農民連」の満川さんは、支援削減を進める新たな水田政策を「農業は工業とは違う。支援を削る農政には腹の底から怒りを感じる」と訴えました。食料自給率が38%まで落ち込む中で、「備蓄米も空っぽの状態で、どうやって国民を養うのか」と指摘。「軍事費への予算投入をやめ、国民の命と食料を守る政治への転換を」とし、農政の改悪に断固としてNOを突きつけました。

■最賃目標の先送りを許さず「公助の拡大」を

「全労連」の秋山さんは、生活するには全国どこでも時給1,700円程度が必要だとし、最低賃金1,500円目標の先送りを「到底認められない」と批判しました。また、教育への投資不足を指摘し、「教員削減ではなく、児童・生徒に寄り添える環境づくりこそ必要だ」と強調。「誰一人取り残されない社会には公助の拡大が不可欠だ」とし、労働者の団結で政治を変えていくと訴えました。

■軍事最優先の政治から「私たちの国会」へ

「新婦人」の平野さんは、「暮らしや平和外交が置き去りにされ、軍事増強のオンパレードだ」とし、「武力で平和は作れない。弱い立場の人がますます追い詰められている」と強調。女性の声を排除する比例定数削減に対し、「自民・維新の勝手にはさせない。主権者である私たちの手に国会を取り戻そう」と草の根からの運動を呼びかけました。

■1人20万円超の負担増、大軍拡計画の中止を

「日本平和委員会」の千坂さんは、軍事費をGDP比5%へ引き上げる狙いを指摘し、「達成には毎年3兆円の増額が必要で、市民の暮らしは破壊される」と指摘。全国各地で進められているシェルター建設などの動きを「日本を戦場にする戦争体制作りだ」と批判し、「日本を戦争に巻き込む暴国の軍拡計画は即時中止すべきだ」と訴え、「軍事最優先で国民生活を犠牲にする「骨太方針」の撤回を求め、平和を守る闘いをひろげよう」と呼びかけました。

◆シュプレヒコール◆

- ・「軍事費増やすな、暮らしに回せ！」
- ・「大軍拡は絶対反対！武器を買うな、命を救え！」
- ・「医療を削るな、介護を守れ！負担を増やすな！」
- ・「農業潰しの政治をやめろ！食料を守れ！」
- ・「暮らしが第一、政治を変えろ！」